

1 令和4年度取組目標と方策

<p>(1) 学校経営</p> <p>本校のグランドデザインに基づき、下記の取組を分掌や委員会等に位置づけ実効性の高い組織を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 新学習指導要領における理念や方向性等に基づいた教育課程の具体化を図る。</li> <li>② 企画調整会議による校内運営組織の充実を図り、分掌等の機動性と課題解決力を高める。</li> <li>③ 自立経営予算の効率的な執行と効果的な運用を定期的な確認作業を通じて管理し、予算の効果的な執行に努める。</li> <li>④ 文書等管理の徹底を図り、校内における文書及び個人情報等に関する事故防止に努める。</li> <li>⑤ 統合型校務支援システム導入に伴い、業務の効率化と生徒状況等の一元化を図る。</li> <li>⑥ 一人一台端末の導入に伴い、校内の情報活用環境の整備を図る。</li> </ul>
<p>(2) 学習指導</p> <p>学科や教科ごとに指導内容を明確にするとともに、「主体的・対話的で深い学び」について共通理解の形成を図り、教員一人一人が授業改善に努める。また、オンライン学習に関する活用方法について理解を深め、積極的な活用を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 「主体的・対話的で深い学び」に関する理解を深め、授業改善を図る。</li> <li>② 学習支援クラウドサービスを活用した教科ごとの学習支援策を検討し具体的な活用を開始する。</li> <li>③ ICT機器を活用した授業改善に努め、授業公開などを通してノウハウの共有を図る。</li> <li>④ 「観点別評価」の導入の趣旨を踏まえ、適切な評価の運用を通して、生徒の能動的な学習を促進する。</li> <li>⑤ 通級指導に関する組織体制を整備し、ケース会議や特別支援委員会を定期的で開催する。</li> </ul>
<p>(3) 進路指導</p> <p>キャリア教育に関する専門性を高める取組を実施するとともに、専門学科ごとの特性を踏まえたキャリア教育の全体計画の見直しを行う。その上で、進路の未決定者をゼロにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① キャリア教育の全体計画に基づき、進路指導部を中心とした意図的・計画的な指導を展開する。</li> <li>② 外部学力テストの実施及び大学入学共通テストの情報分析等の結果を踏まえ、教科の進学対講座等の指導内容を修正する。</li> <li>③ これまで実施してきた様々な進路に関する取り組みについて整理し、必要かつ効果が期待できるものに資源を集約し効果的な指導体制を構築する。</li> </ul>
<p>(4) 学校生活と健康づくり</p> <p>発生が予測される緊急事態に備え、学校と生徒・保護者の連絡体制及び教職員への指示連絡体制を整備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 学校HPや学習支援クラウドサービスによる情報伝達の信頼性を高める。</li> <li>② 新型コロナウイルスに関する感染防止策の徹底を図り、校内における感染防止に努める。</li> <li>③ 校内の相談機能を有効に活用するため、保健厚生部による広報機能の充実を図る。</li> <li>④ 生徒に関する課題について、個人ではなく組織で対応し、より効果的な指導を展開する。</li> <li>⑤ あらゆる教育活動を通して、運動・スポーツへの興味・関心を高め、運動・スポーツに勤しむ態度を培う。</li> <li>⑥ メンタルヘルス講習会への参加や、ストレスチェックなどを活用し、教職員の健康状態への関心を高</li> </ul>

めるとともに、ライフ・ワーク・バランスの充実を図るため、職場環境改善を促進する。
(5) 特別活動
<p>新型コロナウイルス感染防止の観点から制限のかかる特別活動において、時代を超えて受け継いできた文化を継承するための取り組みを実施し、今後の充実につなげる。</p> <p>① 新型コロナウイルス感染防止の観点を踏まえ、適切な特別活動の在り方を検討し実施計画を作成する。</p> <p>② 制限のかかる特別活動においては、規模や広報活動を工夫することで生徒の活動を確保する。</p> <p>③ 地域との連携を強化した防災教育の在り方を検討し実施する。</p> <p>④ 生徒が、社会の状況を踏まえ、社会の一員としての自覚と責任について考える指導を展開する。</p>
(6) 広報活動と地域連携
<p>学校HPの運用について、工芸・デザイン教育のもつ魅力や重要性などを、工芸高校に関心をもつ中学生やその保護者等に適時適切に発信できるよう、校内体制の整備を行う。</p> <p>① ホームページ委員会が組織として管理できる制度と体制を整備する。</p> <p>② SNSを活用した情報発信の可能性を費用対効果の観点から検討し一定の条件をクリアしたものを活用する。</p> <p>③ 動画配信や学校紹介コンテンツの活用など、新たな広報活動の在り方について検討を行い適宜実施する。</p>

## 2 成果と課題

※ ( ) 内の数値は前年度のもの

① 入試応募倍率の確保
<p><b>【成果】</b></p> <p>今年度、中学校訪問や出前授業、夏休み工作スタジオ、学校説明会・授業公開等の活動はほぼ例年並みに行い参加者数も昨年と同等程度を維持したが、受験倍率は若干減少した。 推薦入試入学応募平均 <b>3.6 倍</b> (3.7 倍)、一次入試入学応募倍率平均 <b>1.60 倍</b> (1.71 倍)</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今年度、マシクラフト科の受験生に当日欠席が多く、これまでにない傾向が見られた。また、デザイン科の受験生の合格水準が上がり、マシクラフト科は第5志望で入学する生徒が出てきた。昨年度、都立学校教育部選抜担当から第一希望優先で入学者を決定する方式について打診があったが、今後慎重に検討をしていく必要がある。</li> <li>HPのリニューアルについては、効果を検証し適宜、改善を図っていくことが必要であるが、TwitterやInstagramなどの活用を促進し複合的なPRを展開していく必要がある。</li> </ul>
② 生徒満足度の向上
<p><b>【成果】</b></p> <p>生徒による授業評価や学校運営連絡協議会・学校評価アンケートの結果を基に、授業改善や分掌活動の見直しを行い、各種行事のさらなる活性化を図り、各生徒満足度を概ね達成した。</p> <p>授業の満足度 <b>90.3%</b> (89.6%)                      進路指導の満足度 <b>92.8%</b> (92.0%)  生活指導の満足度 <b>81.7%</b> (83.3%)              特別活動などの満足度 <b>91.3%</b> (76.1%)  学校生活の満足度 <b>94.5%</b> (93.2%)</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進学希望が年々増加しているため、普通科目の充実を期待する生徒が多く、普通教科全般で満足度</li> </ul>

<p>が高くなる傾向がある。隔週で曜日を指定した補講を実施することや、夏季休業期間等に集中して普通教科の受験対策や補講の手だてを充実していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近の生徒の傾向として、友人関係及び家庭と学校生活との両立に悩む生徒が増加している。スクールカウンセラーや外部の心理職等の方による相談や講演会を、保護者別や学年別に実施することで、安心して学校生活を送れるようにする。</li> </ul>
<p>③ 大学の現役合格率の向上</p>
<p><b>【成果】</b>  進学希望者に対するキャリア教育を推進し、長期休業日中の進学対策講座やデッサン講習会等の支援対策の充実を図り、4年生大学の現役合格率を概ね高めることができたが、これは、進路決定に対する担任団の考え方に影響をうけた結果の可能性が高い。また東京芸術大学への既卒合格者を2名出した。  4年制大学現役合格率 <b>73.9%</b> (59.0%)</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業日中の進学対策講座は、進学希望別や希望する講座を受講できるよう講座の時間割を整理し、生徒の目的を達成できるような講座配置を提案する。</li> <li>・高大連携や専門学校との連携を拡充して、外部教育機能を活用することで、さらなる生徒の専門性を高める。</li> <li>・東京芸大などの難関校へチャレンジさせるか、無難に入れるところに進学させるかの判断が難しい。新型コロナウイルスの制限の中で、様々な未曾有を体験し、安定志向が高く、高望みをせず、進学後の無難な学校生活は成功ととらえる傾向がある。今後も同様の傾向が出てくる可能性があり、数値動向の在り方も含めて検討する必要がある。</li> </ul>
<p>④ 各種検定・資格取得及び競技会等への意欲的な参加</p>
<p><b>【成果】</b>  今年度、長年の新型コロナウイルスの影響から、競技会やコンクールの中止もあり、例年の活動と比較すると減少している。各種検定や資格取得数も減少したが、国家資格や公的資格、民間資格等の様々な種類の中で将来役立つ資格や必須な資格は、状況に応じて精査し、取得している。  検定・資格取得延べ件数 <b>428</b> 件(464 件)  各種競技会・コンクール等での入選・入賞件数 <b>78</b> 件 (93 件)</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は、検定や競技会の実施状況と、授業等の年間指導計画との関係から、取り組むべき課題を精選し効果的に活用していく必要がある。</li> <li>・全工協ジュニアマイスター特別賞の申請において、申請ミス（不受理）が発生した。複数チェックを行うよう準備してきたが、組織的な連携に課題があった。改めて、チェック体制の確認とルールの徹底を図る。</li> </ul>
<p>⑤ 進路未決定者の解消</p>
<p><b>【成果】</b>  この調査は、進路希望の有無に関わらず全ての生徒が対象となるが、様々な理由から、進路決定の取組から外れる生徒もあり、数だけでは評価はできないが、数の上では改善を図ることができた。  就職志望者の就職内定率 <b>100%</b> (100%)、次年度進学志望者を除く進路未決定者 <b>2名</b> (3名)</p> <p><b>【課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人ひとりの多様な進路実現を目指して、必修選択や自由選択、横断的な選択講座の設置など、カリキュラムの改善を図る。</li> </ul>